

東京IPO IRセミナー2014

ダイコク電機 会社説明会

2014年7月12日 東京・三菱ビルエムプラス10階

本日の内容

1. 会社概要・事業内容 ……02～08頁
2. パチンコ業界環境 ……09～16頁
3. 当社の強み ……17～20頁
4. 当社の業績について ……21～28頁
5. 中期経営計画 ……29～32頁
6. 株価・配当 ……33～35頁

<注 記>

本資料に掲載されているダイコク電機の現在の計画、見通し、戦略、確信等のうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。

これらの情報は、現在入手可能な情報から当社の経営者の判断に基づいて作成されております。

実際の業績は、さまざまな重要な要素により、業績見通しとは大きく異なる結果となりうるため、業績見通しのみには全面的に依拠することは控えるようお願い致します。

また、本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。

投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるよう、お願い申し上げます。

本 社	名古屋市中村区那古野一丁目43番5号
設 立	1973年7月(創業:1964年12月)
資 本 金	6億7千4百万円 (発行済株式数14,783,900株)
代 表 者	代表取締役社長 栢森秀行
事 業 所	事業所: 全国4事業所 (愛知・東京) 支 店 : 全国4支店 (東京・大阪・名古屋・福岡) その他: 13営業所
社 員 数	連結: 602名、単体: 441名 (2014年3月末時点)
決 算 期	3月
上 場 取 引 所	東京証券取引所 市場第一部 名古屋証券取引所 市場第一部
関 係 会 社	元気(株)、DAXEL(株)、ダイコク産業(株)
一 単 元	100株

情報システム事業 概要

事業内容 <情報システム事業-1>の概要

パチンコホール向けコンピュータシステムの開発・製造・販売

ホールコンピュータ



営業管理コンピュータ
営業端末MT-01 II

景品顧客管理システム



景品管理POS
Cti-77



玉計数機
LC-77



CRユニット VEGASIA

市場の35%のトップシェア

MIRAIGATE サービス



ホールサポートサービス
パートナーズセンター

情報公開システム



情報公開端末
データロボ



呼出ランプ ロボパートナー
IL-X2



台毎液晶端末
「BiGMO PREMIUM」

戦略情報システム「DK-SIS」

DK-sis

パチンコホール向け会員制情報提供サービス
「DK-SIS」

ホール経営支援サービス(パチンコ業界唯一のサービス)

パートナーズセンター

※顧客満足度調査83%達成！！

3つの“S”を結集した 業界初の強力なサポート

市場の変化や様々な機種の登場により多様化の一途をたどるホール運営。ホールコンピュータも複雑化し自力では解決できない問題が発生したり、最新の機種に合わせたデータの活用やセキュリティ対策がなされず、本来の機能を活かしきれていないケースがほとんどです。ダイコク電機“MIRAIGATE”ではネットワークを駆使し、システム・サービス・スタッフの力を結集した弊社ならではの強力なサポート体制を構築しています。

EX!! こんな問題を解決!!

急なトラブルが発生! 対応がわからないし営業に支障が...

最近“CR●●”でゴトが流行っているけど対策できるセキュリティはないかなあ...

CIIデスク ~info~ に新しいデータ活用の紹介があったけどもっと詳しく知りたいなあ...

異常な数値が上がっているけど 原因はなんだろう...

今さらこんなこと担当者に聞けないなあ... どうしよう

新台の配線、どうやって接続したらいいのかな...



メンテナンスデスク

現場経験も豊富な専門スタッフがトラブルを全力で解決に導きます!
IP電話やリモート操作などネットワークを活かした速やかな対応が可能です。



メンテナンスに特化した問い合わせを完全網羅、掲載します

突発するトラブル対応なら



ホールコンピュータ「CII」の側に設置されているIP電話のボタンを押すだけ!



お客様との距離を縮めるリモート環境の整ったパートナーズセンター

活用面でのお問い合わせなら

CII デスク

CIIの活用を管理者面だけでなく、ファン目線でも分析し、常に最新で最適な運用ができるようにフォローを行います。またCIIデスク -info- に掲載した内容に対するお問い合わせを受け付けます。

CII デスク -info-



CII活用をホールコンピュータ上で構築して頂くインフォメーション【最新ゴト対策・データ活用等】や質問の多い内容への回答を掲載します。

制御システム事業 概要

事業内容 <制御システム事業> 事業の概要

パチンコ遊技機用ユニットの開発・製造・販売



CRぱちんこ冬のソナタFINAL
京楽産業. 株式会社

©KBS Media/Pan Ent. ©アニメ「冬のソナタ」製作委員会© KYORAKU



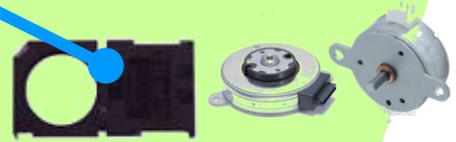
表示ユニット



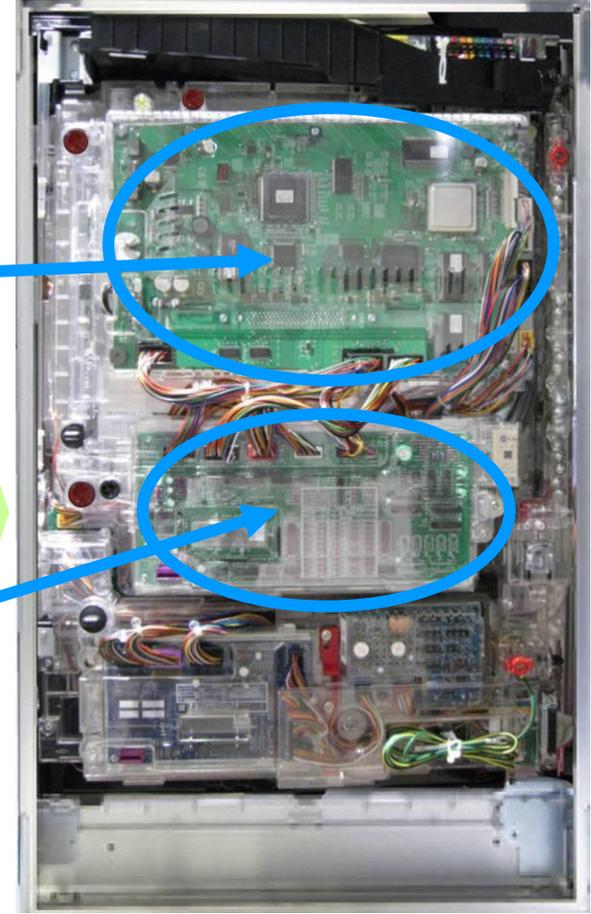
DK **ダイコク電機株式会社**



制御ユニット



部品（スイッチ、モーター類）



2013年度よりパチスロ市場に本格参入し、今期は複数機種を販売予定



まじかるすいーと

プリズムナナ

MAGICAL SUITE PRISM NANA™

タッチセンサー搭載の18.5インチ全面液晶上でアニメとパチスロが競演!!

「まじかるすいーとプリズム・ナナ」プロジェクトにおけるメディアミックスの一環として、いち早くパチスロとして登場します。

そして、既に好評価を得ている楽曲とも融合しプレイヤーを魅了します。

キャラクター原案は「カントク」が描き、アニメーションは「シャフト」が制作。

CVはイタル役「三森すずこ」、アスカ役「今井麻美」、コトネ役「喜多村英梨」と今が旬な豪華キャストिंगとなっております。

★ プリズムナナの業績について

販売台数 ……約4,000台

2013年1月～パチスロ機種貢献順位 ……19位/74機種中

※ 累計台粗利 ……54万7,000円(10週連続・粗利貢献達成)

※「累計台粗利」とは……登場してからDK-SIS平均稼動を下回るまでの期間における台粗利の合計

パチンコ業界環境について

最近の業界動向

- ① 当社DK-SISデータによると、ここ数年パチンコホールの業績は継続的に緩やかな下落傾向となっておりましたが、平成25年は過去最低の稼動と粗利を記録しました。パチンコ遊技機の稼動低下(特に4円貸しパチンコ)が続いており、平成21年以降順調に推移してきたパチスロ遊技機の稼動が頭打ちとなり、ホール全体の業績を補うことが出来ず、依然として厳しい状況が続いております。
- ② 大規模チェーン店による大型店舗の積極的な新店・改装などの投資が行われた一方で、閉店や休業となる店舗数は増加しており、ホール経営企業間の業績格差は大きくなっていると思われれます。
- ③ 平成25年度中における全国のホール件数は11,893店(△256店)。全国の遊技機設置台数は、パチンコ遊技機は減少(△33,162台)となりましたが、パチスロ遊技機の増加(+52,829台)により、4,611,714台(+19,678台)と4年連続の増加となりました。
1店舗当りの遊技機設置台数は387.8台(+9.8台)と増加し、店舗の大型化が一層進んでいる状況が伺えます。

(データ出所) 警察庁生活安全局「平成25年度中における風俗関係事犯の取締状況等について」

当面の業界動向

- ① わが国経済は、政府の更なる経済対策、金融政策の効果などを背景に、緩やかな景気回復基調にありますが、消費税増税により先行きは不透明な状況にあります。

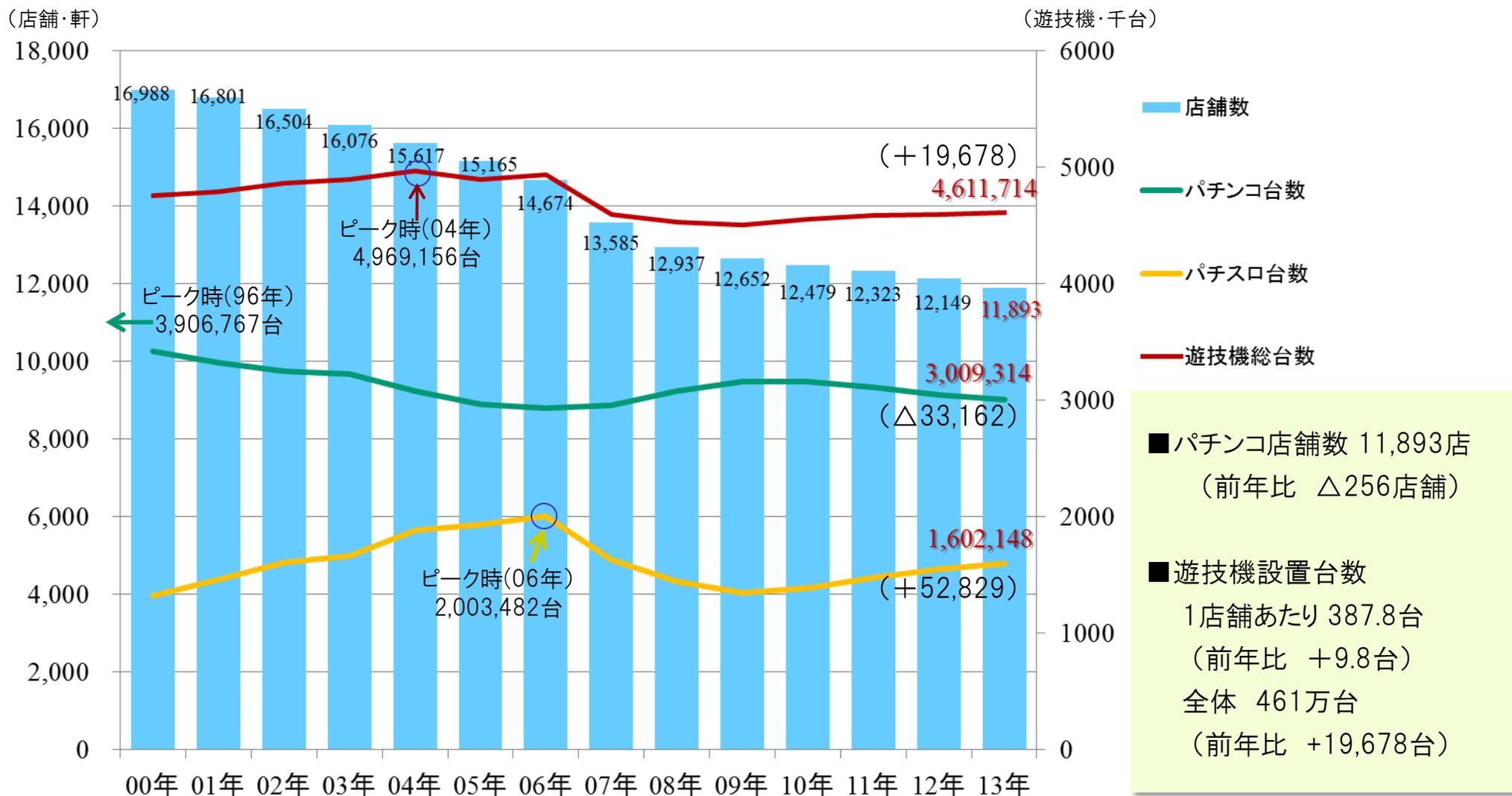
当社が携わる余暇産業であるパチンコ業界におきましても、景気回復への波及はまだしばらくかかるものと思われませんが、中期的には「2020年東京五輪」開催に向け景気も徐々に回復すると予想されます。

- ② 今期のパチンコホール市場は未だ拡大基調には無く、その規模は前期程度と想定されます。

企業規模の拡大には各企業とも未だ慎重傾向にあり、既存店舗の集客に尽力するものと思われれます。従前のように宣伝広告や遊技機入替えの効果が高いと思われれますが、広告規制や費用対効果を考えれば積極的には動きにくく、引き続き情報公開端末の導入・入替や空調設備の更新などファンにとって快適な遊技環境を提供する設備を充実させ、集客の維持向上を狙ってくるものと想定しております。

パチンコ事業環境

パチンコ店舗数およびパチンコ・パチスロ遊技機設置台数の推移



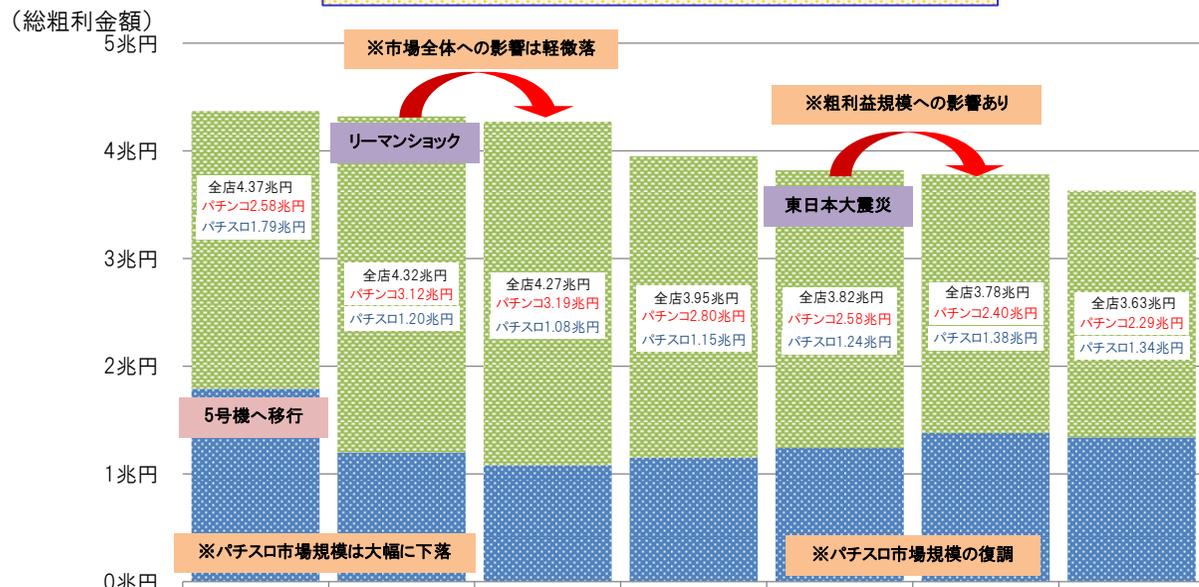
(データ出所) 警察庁生活安全局保安課「平成25年中における風俗関係事犯の取締状況等について」

事業環境 市場総粗利規模の変化と年別業績推移

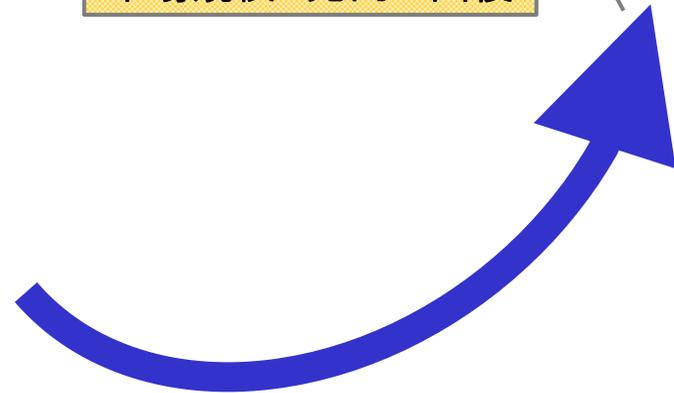
市場は、短期的には厳しいものの、中期的には市場規模4兆円に向かって回復と予想

パチンコ事業環境
【総粗利益規模の変化と年別業績】
 (注)調査資料の出处 ダイコク電機「DK-SIS」

弊社がイメージする当面の市場推移
 (弊社推定)



市場規模4兆円の回復



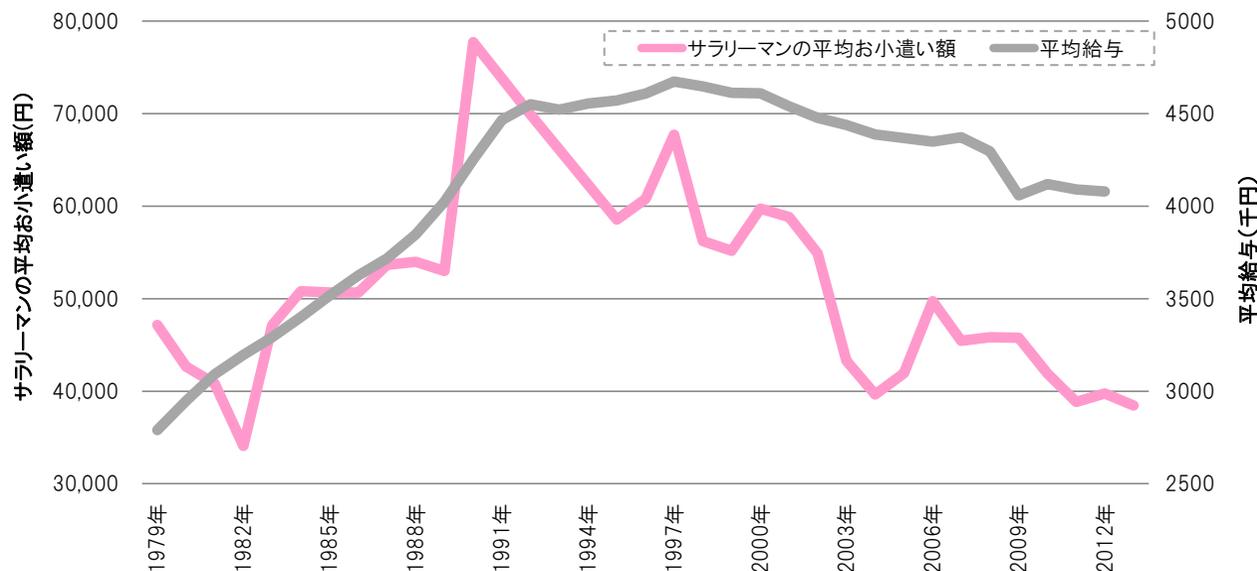
消費税率引上げ

東京五輪開催

※粗利規模データはDK-SISデータより市場データを推測した数値
 ※稼働時間は1時間あたりパチンコ:5000玉、パチスロ2000枚で算出

ご参考 サラリーマンの平均お小遣い額推移

サラリーマンの平均お小遣い額 推移
(1979年～2013年)



- 1990年代以降、サラリーマンのお小遣いは低下傾向で推移しています。
- 最近、ベースアップの動きが広がりがつつあります。
人手不足もあり、当面、日本企業の給与は底堅く推移する可能性が高いと推定しています。
- 短期的には、消費税率引上げの影響から、お小遣い額は落ち込むかも知れませんが、中期的には、上昇に向かうことを期待しています。



(注) サラリーマンのお小遣い調査は1991年、1993年、1994年は未調査。
上記グラフでは前後の調査年のデータを平滑化して表示。
(データ出所) サラリーマンの平均お小遣い額: 新生銀行
平均給与: 国税庁「民間給与実態統計調査」

ご参考 事業環境について(パチンコホール)

「パチンコホールの市場規模」を表す指標はいくつもあるが、それぞれ根拠が異なり注意が必要である

	項目	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
警察庁発表	設置台数	493万台	459万台	453万台	451万台	455万台	458万台	459万台
	営業所数	14,674	13,585	12,937	12,600	12,479	12,323	12,149
ダイコク電機 推測 市場規模	売上規模	37.6兆円	32.5兆円	28.4兆円	27.6兆円	25.1兆円	24.6兆円	24.8兆円
	粗利規模	4.47兆円	4.37兆円	4.32兆円	4.27兆円	3.95兆円	3.82兆円	3.78兆円
	対2006年比率	—	97.8%	96.6%	95.5%	88.4%	85.5%	84.6%
	遊技機費用	—	1.43兆円	1.22兆円	1.19兆円	1.19兆円	1.24兆円	1.37兆円
	遊技機費比率	—	32.7%	28.2%	27.9%	30.1%	32.5%	36.4%
総務省 社会生活 基本調査	ファン人口	1358.7万人	—	—	—	—	1151.8万人	—
	対2006年比率	—	—	—	—	—	84.8%	—
	平均遊技回数	44.9回	—	—	—	—	50.1回	—
	対2006年比率	—	—	—	—	—	111.6%	—
レジャー白書 推測 市場規模	売上規模	27.5兆円	23.0兆円	21.7兆円	21.1兆円	19.4兆円	18.9兆円	19.7兆円
	※粗利規模	1.86兆円	1.47兆円	1.94兆円	1.21兆円	1.29兆円	1.18兆円	1.08兆円
	対2006年比率	—	79.0%	104.3%	65.1%	69.4%	63.4%	58.1%
	ファン人口	1660万人	1450万人	1580万人	1720万人	1670万人	1260万人	1110万人
	対2006年比率	—	87.3%	95.2%	103.6%	100.6%	75.9%	66.9%
	平均遊技回数	28.1回	25.6回	29.6回	20.4回	19.9回	27.8回	27.4回
	対2006年比率	—	91.1%	105.3%	72.6%	70.8%	98.9%	97.5%
遊技機費比率	—	—	—	100.0%	90.7%	101.7%	111.1%	
遊技機市場	遊技機費用	—	—	—	1.21兆円	1.17兆円	1.20兆円	1.20兆円
	周辺設備費用	—	—	—	0.16兆円	0.15兆円	0.16兆円	0.17兆円

＜社会生活基本調査について＞ 総務省
5年に一度行われるアンケート調査 有効回答数は約18万人

＜「レジャー白書」について＞ 公益財団法人 日本生産性本部
年一回余暇活動をインターネット調査 有効回答数は約3千人
※レジャー白書・粗利規模は計算値を記入してあります

「パチンコ産業規模」を表す指標はいくつもあるが、それぞれ考え方が異なり注意が必要である

社会生活基本調査

■ パチンコファン人口
2006年 1,358.7万人
↓
2011年 1,151.8万人 (2006年比 84.8%)
■ 年間の平均遊技回数
2006年 44.9回
↓
2011年 50.1回 (2006年比111.6%)

「パチンコファン人口」について

どちらもファン人口は減少しているが、減少の度合いが大きく異なっている



「パチンコファン人口が大幅に減少」…等
⇒ 世間への伝わり方に誤解が生じる恐れあり
※毎年減少しているが、人口減少に伴うものであり、大幅な減少との捕らえ方は間違いである

パチンコホールの市場規模について

レジャー白書では年間売上18.9兆円、粗利1.18兆円
※パチンコホールの売上とは、貸玉料金のことであり、一般の小売業などに該当する売上は粗利となります(実売上)

パチンコホールでの実売上が年間1.18兆円であるとすれば
パチンコ遊技機の購入費約1.2兆円が支払えないことになり矛盾が生じる
(その他 設備機器購入費1,700億円、人件費、光熱費など)

ダイコク電機は、パチンコホールの市場規模を「売上」24.6兆円、「粗利」を3.8兆円と推定
※遊技機購入費は粗利(実売上)の約3割といわれている

レジャー白書

■ パチンコファン人口
2006年 1,660万人
↓
2011年 1,260万人 (2006年比 75.9%)
■ 年間の平均遊技回数
2006年 28.1回
↓
2011年 27.8回 (2006年比98.9%)

＜注意＞上記内容はデータの整合性をとるため、2006年と2011年の調査資料を使用しております

ダイコク電機の強み

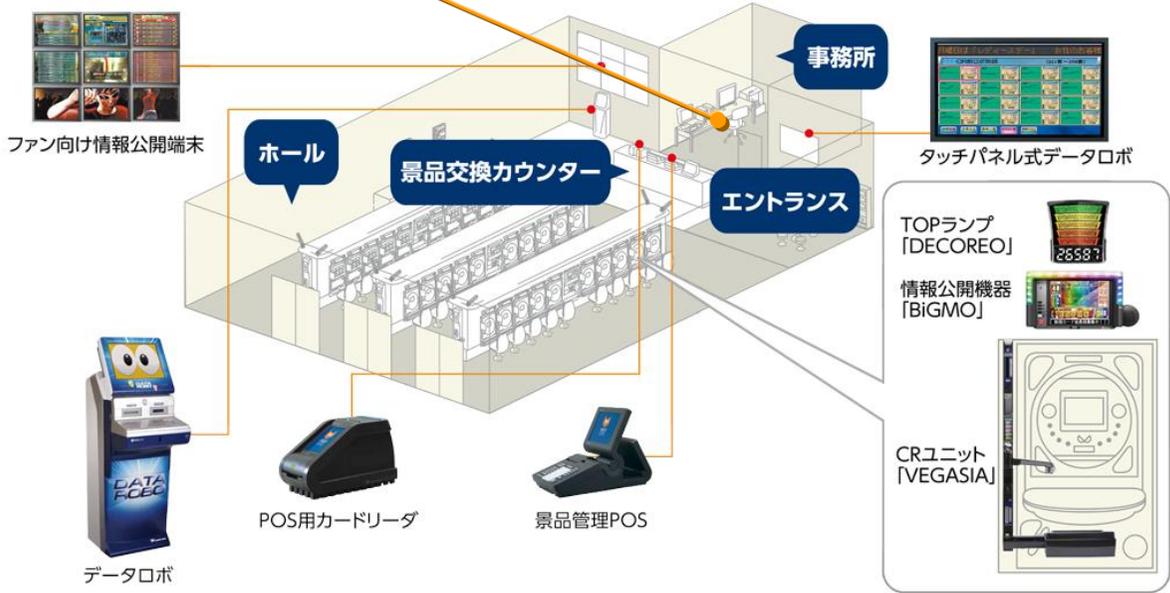


= 市場の35%のトップシェア

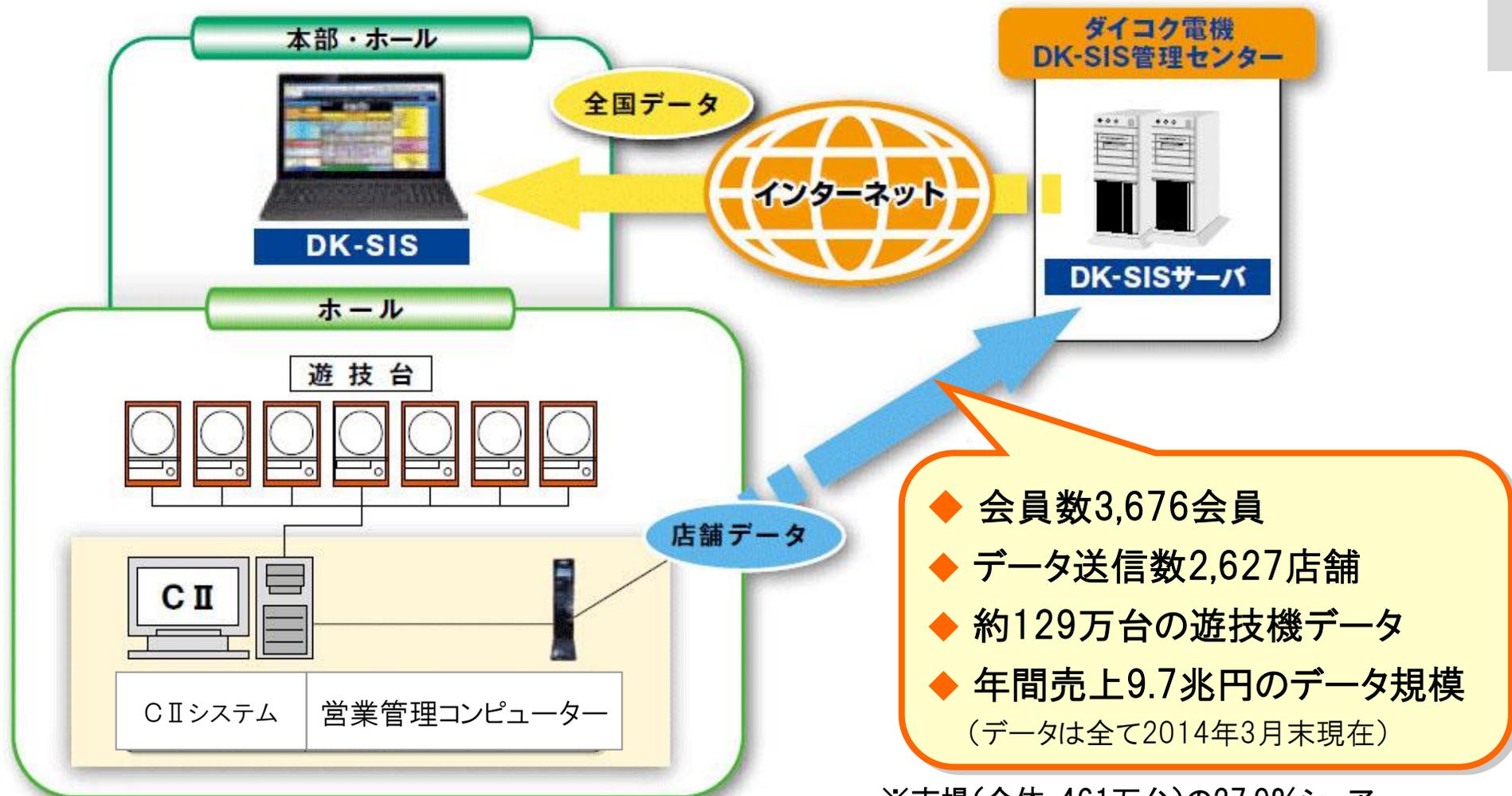
ダイコク電機は、創業当初、電気回路の製作を得意とし、その知識と技術を活かし、パチンコ玉をカウントする装置を開発。

その後、台ごとにデータを収集し、管理する独自のシステムをはじめ、遊技機のデータをお客さまに公開する情報端末「データロボ」、店舗経営を支援する情報提供サービス「DK-SIS」の開発。

「MIRAIGATE」ブランドを立ち上げるなど、業界に先駆け、新たな製品・サービスを提供しております。



< 当社の強み > 戦略情報システム「DK-SIS」



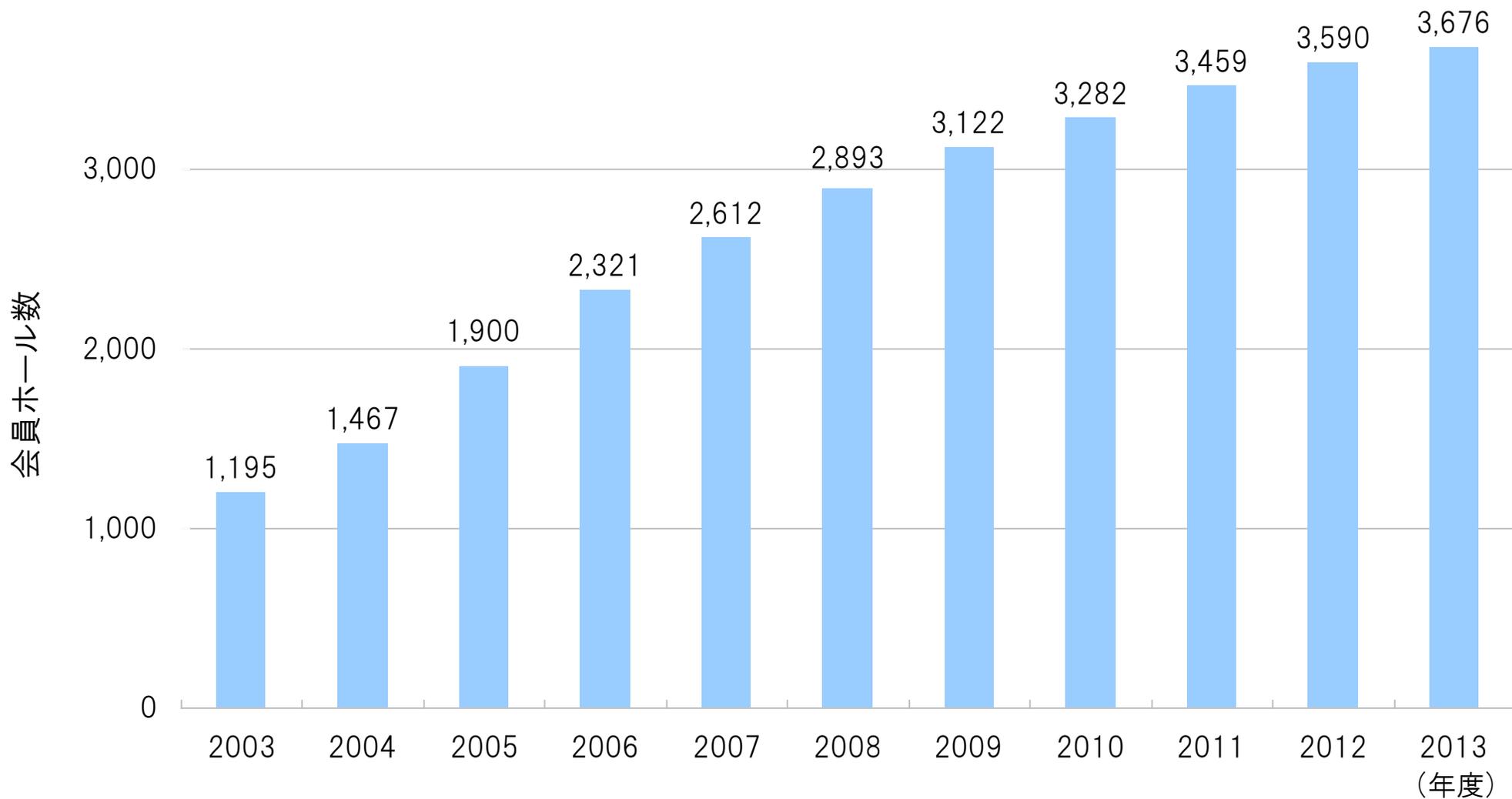
- ◆ 会員数3,676会員
- ◆ データ送信数2,627店舗
- ◆ 約129万台の遊技機データ
- ◆ 年間売上9.7兆円のデータ規模
(データは全て2014年3月末現在)

※市場(全体・461万台)の27.9%シェア

DK-SISは、会員ホールから送信された営業データを集計・分析し、ホール企業が効率経営を実現するための情報をフィードバックする戦略ツールであり、業界におけるデファクトスタンダードとして広く認知されています。

戦略情報システム「DK-SIS」

DK-SIS会員数の推移グラフ



2014年3月期 決算報告

2014年3月期決算概要(連結)

連結損益計算書

ブランドの総合力でホールからの評価を獲得・・・情報システム事業は、過去最高の売上高

単位:百万円	2013年3月期	2014年3月期	前期比	計画比
売上高	58,861	56,954	△3.2%	+11.7%
差引売上総利益	18,776	18,691	△0.5%	+9.9%
販売管理費	11,753	13,353	+13.6%	+2.7%
営業利益	7,023	5,338	△24.0%	+33.5%
経常利益	7,244	5,474	△24.4%	+36.9%
当期純利益	4,161	3,278	△21.2%	+63.9%
研究開発費	2,720	3,656	+34.4%	+4.5%

■売上高減少要因

2014年3月期は、情報システム事業はCRユニット(プリペード式台間玉貸機)や情報公開機器が高く評価され創業来最高の売上高となりましたが、制御システム事業は当社が携わった販売機種数が少なかったこともあり売上高は減少しました。

■売上総利益 維持要因

利益率のよい情報システム事業の売上高が伸びたことによります。

■販売管理費増加要因

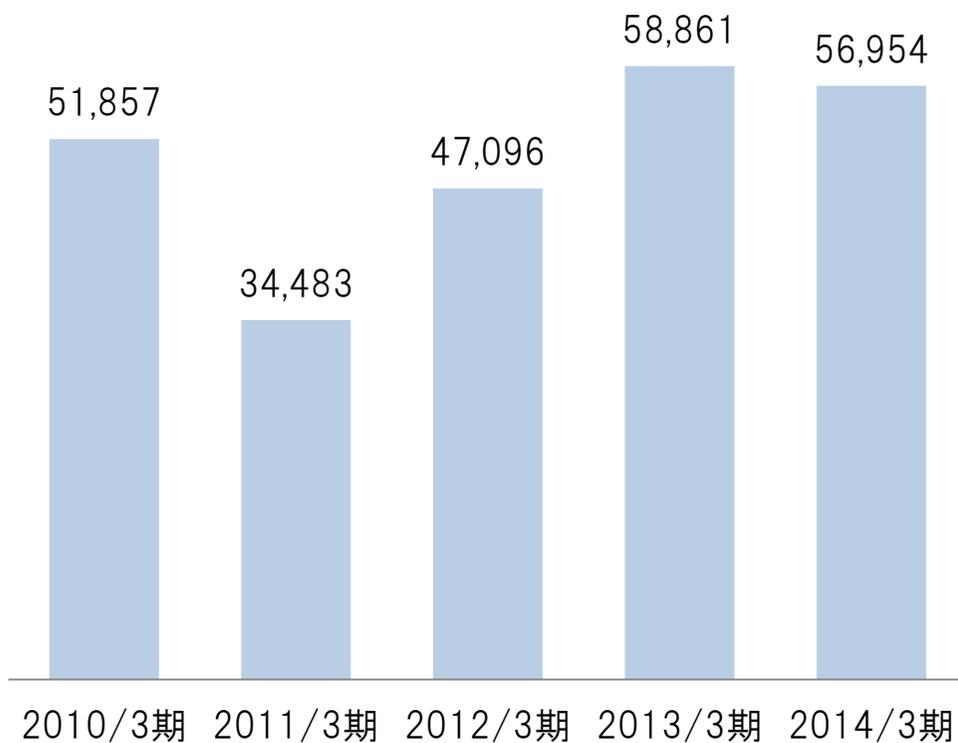
情報システム事業において、次世代製品群開発へ積極的投資を開始いたしました。

(注)計画比は、2013年11月11日に発表した2014年3月期業績予想数値、並びに、2013年11月28日開催の機関投資家・アナリスト向け2014年3月期第2四半期決算説明会資料記載の計画対比です。

売上高、営業利益の推移

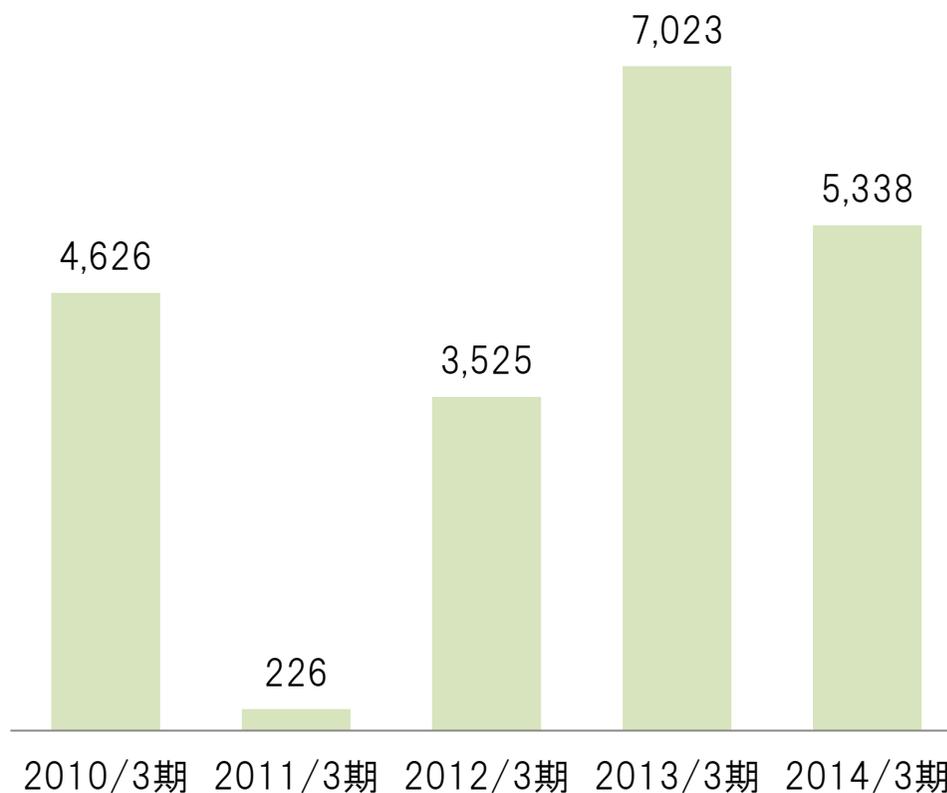
(単位:百万円)

売上高



売上高

営業利益

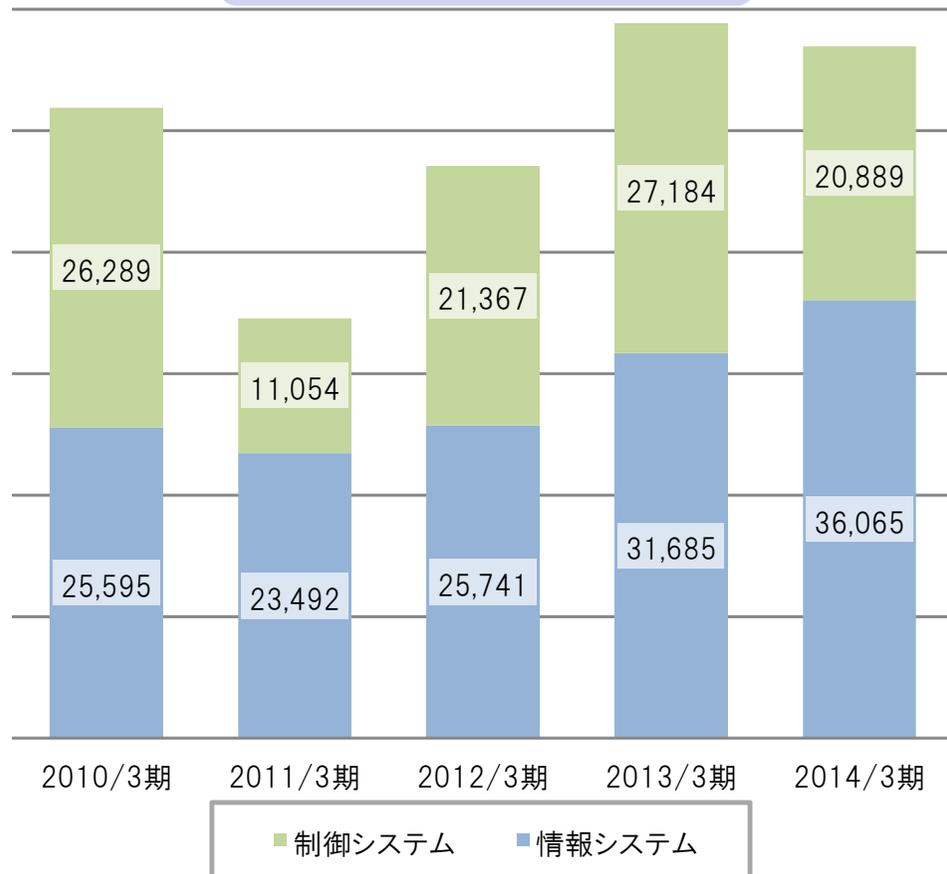


営業利益

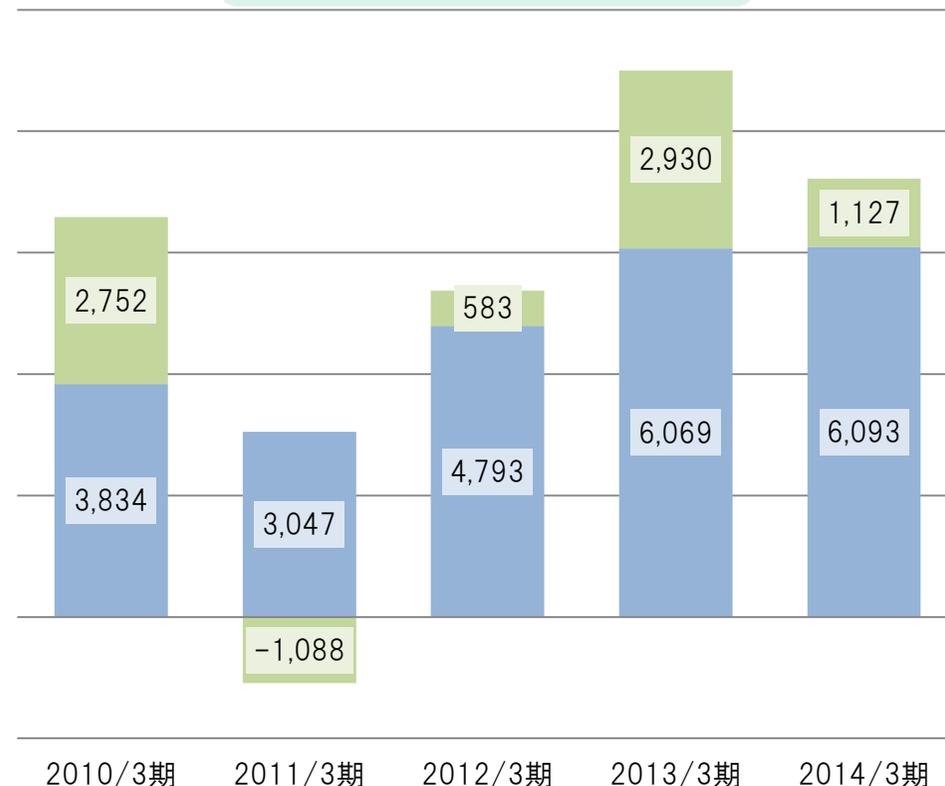
セグメント別業績

セグメント売上高、セグメント利益の推移

セグメント売上高



セグメント利益



(注) 事業の種類別セグメントの業績の金額には、セグメント間取引が含まれております。

2013年3月期より、情報システム事業と制御システム事業の2事業としました。上記の2012年3月期以前の制御システムは、アミューズメントコンテンツ事業を合算して表示しております。

連結貸借対照表

単位:百万円

	2013年3月期	2014年3月期	増減
流動資産	39,789	37,045	△2,744
固定資産	16,916	16,884	△32
資産合計	56,706	53,929	△2,776
流動負債	24,544	20,159	△4,385
固定負債	1,722	1,509	△213
負債合計	26,267	21,669	△4,598
純資産合計	30,439	32,260	+1,821
負債純資産合計	56,706	53,929	△2,776
有利子負債	1,269	800	△469
D/Eレシオ(グロス)	0.04倍	0.02倍	△0.02倍
純資産比率	53.7%	59.8%	+6.1%
売上債権回転日数	61.6日	73.5日	+11.9日
棚卸資産回転日数	45.7日	55.8日	+10.0日
仕入債務回転日数	88.3日	105.8日	+17.4日
発行済株式数(株)	14,783,412	14,783,322	

■総資産(前期比) △2,776百万円

流動資産 △2,744百万円

2015年3月期に未収入金の増加がありました
が、現金及び預金や原材料が大きく減少した
ことによります。

固定資産 △32百万円

遊休資産等の売却が減少要因であります。

■負債(前期比) △4,598百万円

未払金の増加がありました
が、仕入債務及び未払法人税等
が大きく減少したことによります。

■純資産(前期比) +1,821百万円

利益剰余金の増加によります。なお、自己資本
比率は前連結会計年度に比べ6.1ポイント上昇
の59.8%となりました。

2015年3月期 業績見通し

単位:百万円	2014年3月期			2015年3月期(見込)			前期比
	上期	下期	通期	上期見込	下期見込	通期見込	
売上高	25,882	31,072	56,954	27,000	28,000	55,000	△3.4%
差引売上総利益	8,191	10,500	18,691	8,500	9,500	18,000	△3.7%
販売管理費	5,704	7,649	13,353	7,000	8,000	15,000	+12.3%
営業利益	2,487	2,851	5,338	1,500	1,500	3,000	△43.8%
経常利益	2,559	2,915	5,474	1,500	1,500	3,000	△45.2%
当期純利益	1,543	1,735	3,278	1,000	1,000	2,000	△39.0%
1株当たり利益	104.38	—	221.80	67.64	—	135.29	—
研究開発費	1,125	2,531	3,656	1,700	3,000	4,700	+28.6%
減価償却費	688	764	1,452	700	900	1,600	+10.2%
設備投資	192	797	989	300	300	600	△39.3%

○ 売上高[19億54百万円減少]

■ 情報システム事業(30億65百万円減少) 360億65百万円→330億円

ホールコンピュータ「CⅡ」との連動による機能面が強化されたCRユニット「VEGASIA」、昨年11月にリリースし高い評価を得た「BiGMO PREMIUM」を中心とした台毎データ表示機の拡販と、MIRAIGATEネットワークユーザーとの関係強化に取り組むとともに、前期より実施している次世代製品開発を継続します。

■ 制御システム事業(11億11百万円増加) 208億89百万円→220億円

稼働貢献を目標に、技術力のある企業と積極的に連携し、事業領域を拡げるとともに、3年先の市場環境を見据えた機械作りに取り組んでまいります。

○ 販売管理費(16億47百万円増加) 133億53百万円→150億円

主な増加要因は、開発費(情報システム事業 9億円増、制御システム事業 1億円増)、業務委託費、販売促進費及び販売手数料等。

中期経営計画について

評価と信頼をベースとした成長の実現

情報システム事業

次世代システムが完成する数年後につないでいく重要な3年間と位置づけ、パチンコホール経営企業とサービス足場を固めつつ、新たなサービス・製品の提案によって、ブランド評価を一層高めていきます。

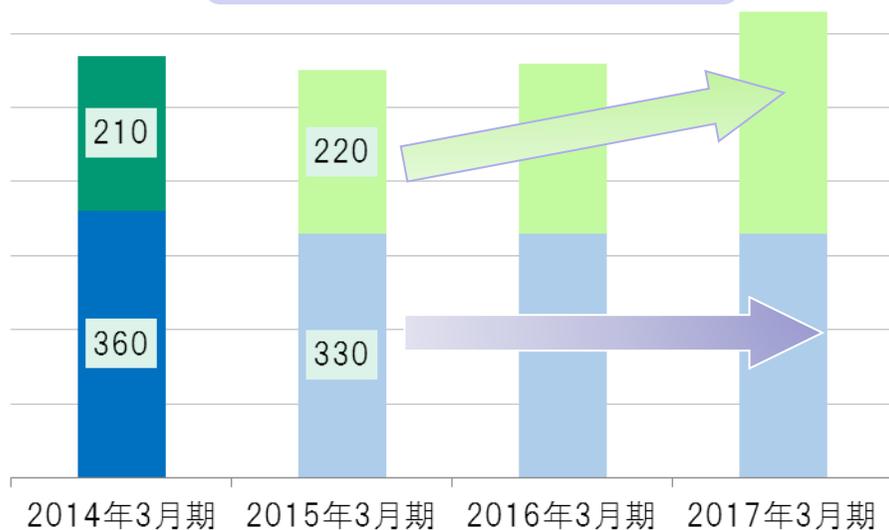
制御システム事業

- ① 多くのパチンコファンに支持される機種を効率的に開発するために、遊技機メーカーとの信頼関係を強化いたします。
- ② パチスロ事業の黒字化による収益の改善

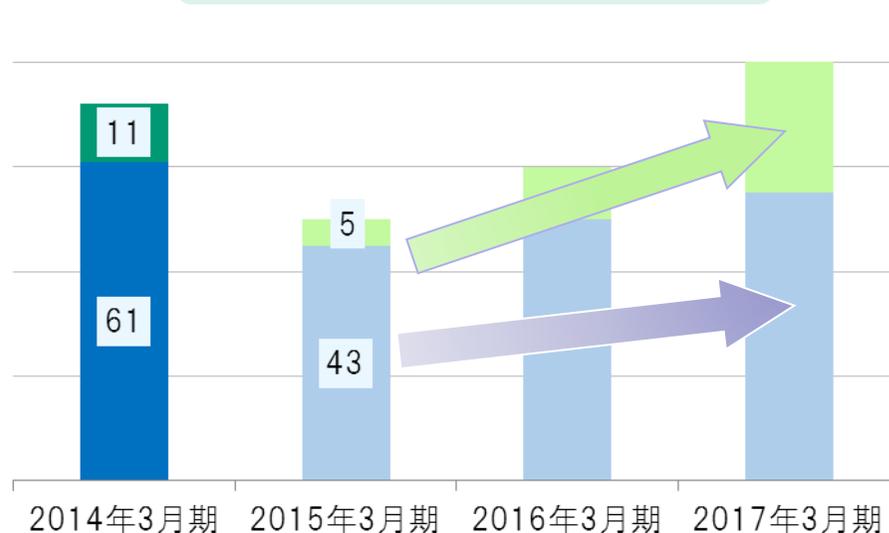
— 基本戦略 —

評価と信頼をベースとした成長の実現

中期 売上高見込み



中期 セグメント利益見込み



情報システム事業

MGサービスの強化によりパチンコホール経営企業との結びつきを強め(利益率向上)、新製品のタイムリーな提案により、売上を伸ばしていきます。

制御システム事業

稼動貢献できる遊技機の開発、パチスロ事業の黒字化による収益の改善

既存事業のシェア拡大とパチスロ事業とで目先の成長を目指す

- ◆ 既存事業のシェア拡大
- ◆ すそ野を広げる新規事業の育成
- ◆ 大ヒット商品の企画製造

長期計画 > ビックデータの収集と分析サービスにも注力

10年後



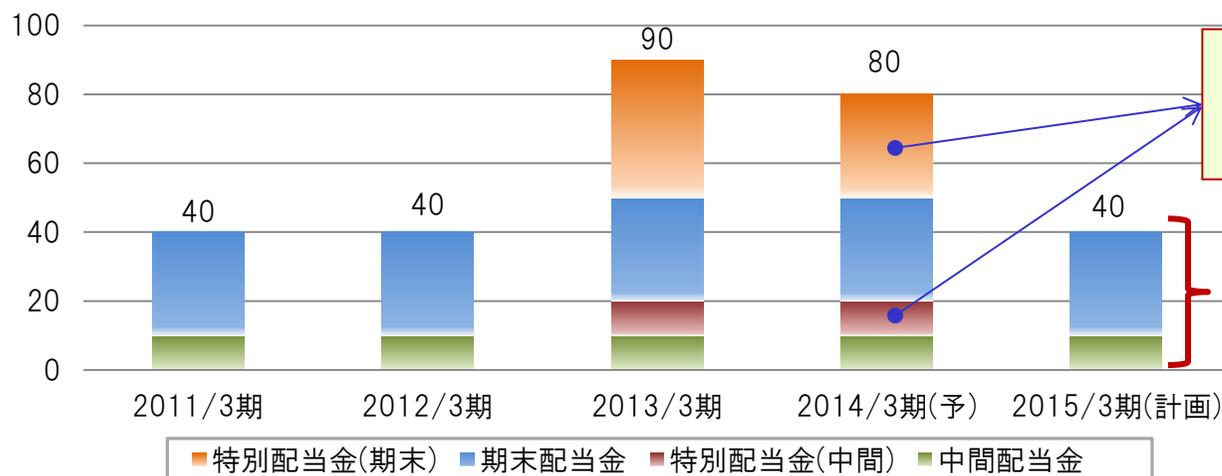
連結売上高 1,000億円、経常利益 100億円

(現在の約2倍の企業規模へ)

配当・株価について

＜方針＞当社は「安定配当」をベースに、収益に応じた「特別配当」を実施

単位:百万円	売上高	営業利益	当期純利益	配当性向
2011/3期	34,483	226	△342	—%
2012/3期	47,096	3,525	1,663	35.6%
2013/3期	58,861	7,023	4,161	32.0%
2014/3期	56,954	5,338	3,278	36.1%
2015/3期	55,000	3,000	2,000	29.5%



※業績に応じて「特別配当」を実施しています。
 (昨年は中間で10円、期末で30円の特別配当を実施)
 ※グラフ内「オレンジ色」部分

年間40円の安定配当 部分
 (中間配当10円、期末配当30円)

7月9日終値 1,689円 (1単元 100株)



ご清聴ありがとうございました